

平成 27 年度 金光八尾中学校・高等学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

本校では開校以来、『人はみな神の氏子である』という金光教祖の広大かつ自然な教えに基づき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、教育方針として「確かな学力と豊かな情操」を、教育理念として「人間平等の教育」「個性尊重の教育」「心を育てる教育」をそれぞれ掲げ、真に社会に役立つ人間の育成に努めている。

1. 人間平等の教育＝人間尊重・人間平等の精神を基に、情操豊かで、確かな学力を培う。
2. 個性尊重の教育＝個性は他の人との比較ではなく、その人の内面にある素晴らしいものこそが個性であるとして、一人ひとりがもつ個性、特性を最大限伸ばす。
3. 心を育てる教育＝人は、お互いが助け合い、支え合って生きていることを認識し、相手を思いやる心、感謝の気持ちをもって他と接することができる心を育てる。

2. 中期的目標

「全ての生徒を伸ばす、伸びる生徒はもっと伸ばす」を目標に、生徒には「来て良かった」、保護者には「行かせて良かった」、学校や塾の先生方には、「勧めて良かった」と評価してもらえる教育を目指している。

(1) 学校運営

- ①教職員の連携
- ②安全対策
- ③設定目標自己診断の実施

(2) 教育実践の充実

- ①教科指導
 - ・公開研究授業の実施
 - ・授業方法・指導内容の工夫改善
 - ・教科会等での自主研修の推進
 - ・中学・高校が連動した指導
- ②生徒指導
 - ・挨拶運動の推進
 - ・基本的な生活習慣の確立
 - ・問題事象のない学校
- ③進路指導
 - ・進路学習の充実
 - ・進路データの整備
 - ・転・退学の防止
- ④人権教育
 - ・人権意識の醸成

<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育にかかる授業の工夫改善 <p>⑤家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会等の開催 ・学校通信等の発行とホームページの充実 <p>⑥広報・募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の魅力や特色の発信 ・教職員一丸となった広報活動 <p>(3) 意識改革と資質向上</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「生徒による授業評価アンケート」の実施 ②教科会、各部会、学年会の定期開催 ③企画力の育成 <p>(4) 学校行事</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生徒会による自主活動の推進 ②部活動の活性化 ③自主・自律・自浄の精神の育成

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p><「学校評価（自己評価）」の結果分析> （平成 28 年 1 月 30 日実施）</p> <p>学校評価にかかる 42 項目の内、41 項目が 75%以上の肯定的な評価「a」となっており、全体的にみると安定した学校運営と考えられる。今後も教職員が連携して、学校教育目標の達成を目指す。</p> <p>一方、肯定的評価が 50%以上 75%未満の「b」となったのは「校外研修への参加体制」の項目である。このことは、学習指導要領の改訂や大学入試センター試験改革などに伴って、教育全体の改革が求められていることから、研究学校への参加や外部研究機関等での研修により、多くの研究や実践を吸収しようと教員が意欲的になっていると思われる。また、昨年度、肯定的評価が「b」であった「部活動」や「6 年一貫教育の推進」などは「a」評価となり、若干の改善はされたが依然として課題は残されている。今後も、「部活動」については入部する部員の確保ともに、活動時間や活動内容を工夫し、充実感のある部活動となるよう改善に努めていく。</p> <p>「6 年一貫教育の推進」については、人事交流や授</p>	<p>学校評価アンケート等の結果から、熱心に学校や授業の改善に取り組む先生の姿勢が感じられ、学校は概ね円滑に運営されていると思われる。</p> <p>授業については、中学生の授業への集中力や学習意欲が弱いように思われ、集中して授業を受けるように指導願いたい。また、生徒が積極的に発言して授業内容を深められるような指導をお願いしたい。</p> <p>これからの社会では人間関係が大切であることから、コミュニケーション能力の向上を目指してしっかり指導してほしい。あわせて、これからの国際社会への進展等を考え、AET の有効活用、留学生の受け入れや海外修学旅行など英語を使う場を設定するなど、英語を話す力をつけてほしい。また、コンピュータの活用が将来の社会生活の基盤となることから情報機器の指導の充実をお願いしたい。</p> <p>学校教育の成果として大学進学実績も出ている。生徒それぞれの希望や目標をめざした指導をお願いしたい。これから大学入試センター試験も変わると聞いているので先生の研修も大切になる、いろいろな場面で研修を深め、全体の動きに遅れないようにしてほしい。</p>

<p>業公開等様々な機会を通して中学、高校と段差なくスムーズに進むよう努める。また、生徒の自主活動については「a」評価ではあるが、生徒会や各係り活動等の活性化を図り、学校行事等に対して生徒達の参加意欲がさらに高まるよう活動内容を検討していく。</p> <p>今後も引き続き、教職員一人ひとりが質の高い教育を求め、日々の教育を進めていく。</p>	<p>その他にも、学校で使用する教科書や副読本の量が多く毎日の通学が大変なことや、日々の課題や宿題で家庭学習が精一杯になっていることなどが話し合われ、生徒にとってよりよい教育環境づくりを目指すこととした。</p> <p>最後に、今後も学校と学校評価委員との間で、教育内容の向上を目指すため、幅広く意見交換をしていくことを確認した。</p>
--	---

3. 本年度取り組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学校運営	ア、教職員間の連携	ア、生徒や保護者を取り巻く状況について教職員間の報告・連絡・相談を徹底し、組織力の向上を図ることで問題行動等の未然防止に努める。	ア、中学部会・高校各学年会を週一回、定例開催し、情報する。	ア、週一回の定例開催を確実に実施し、情報の共有や連携が進んだ。今後も引き続き実施する。
	イ、安全対策	イ、警察署・消防署等から外部講師を招き、全生徒を対象に交通安全指導・防災訓練を実施する。	イ、交通安全指導・防災訓練（避難訓練）を年1回以上実施する	イ、交通安全指導 9/30、避難訓練 9/1 に実施。警察署・消防署からの指導を得た。今後も引き続き実施する。
	ウ、設定目標自己診断の実施	ウ、PDCA システムに基づく「設定目標自己診断」を実施し、教職員が意欲を持って学校改革に取り組むようにする。	ウ、設定した目標について、校長等による教職員全員のヒアリングを年1回以上実施する。	ウ、各教職員が設定した目標の進捗実施状況について、校長が2学期に全教職員と意見交換をした。次年度以降も実施する。
教育実践の充実	<p><教科指導></p> <p>ア、公開研究授業の実施</p> <p>イ、授業方法・指導内容の工夫改善</p> <p>ウ、教科会等での自主研修の推進</p> <p>エ、中学・高校が連動した</p>	<p>ア、教員の授業力や指導力の向上のため、定期的に公開研究授業を実施する。</p> <p>イ、生徒の所属コースに合わせた授業づくりのため、授業の工夫改善に努める。</p> <p>ウ、各教科等で設定した研究テーマについて研修・交流し、指導力の向上を図る</p> <p>エ、中学・高校間における教科指導・生徒指導面で段差</p>	<p>ア、中学・高校別に教科を指定して研究授業を実施、年に一度は外部講師を招聘し指導を受ける。</p> <p>イ、生徒の授業に対する満足度評価が75%以上となる。</p> <p>ウ、教科会で年度当初に設定した研究テーマについての協議を年1回以上実施する。</p> <p>エ、各教科でカリキュラムの連続性等について協議</p>	<p>ア、10人が研究授業を行い、12月に外部講師を招いて研究授業を行った。来年度も引き続き実施する。</p> <p>イ、9割以上の生徒が授業内容に満足している。今後も引き続き工夫改善に努める。</p> <p>ウ、各教科で設定した研修テーマに基づき教科会で報告・協議した。今後も引き続き実施していく。</p> <p>エ、学期毎に開く部会・教科会で、中・高の連携を深め</p>

教 育 実 践 の 充 実	指導	のない指導に努める。	し、生徒指導面では中学・高校連絡会を実施する。	るための協議をした。今後 も引き続き連携を深めてい く。
	<生徒指導> ア、挨拶運動の 推進	ア、生徒会・部活動等の活動 を通して、挨拶の習慣化を目 指し「100%挨拶がこだます る学校」づくりに努める。	ア、生徒会を中心とした早 朝挨拶運動を実施し、生 徒の9割以上が挨拶して いると実感できる状況に する。	ア、生徒会・クラブを中心に 挨拶運動を展開した。登下 校時に挨拶を交わす生徒が 増えた。来客者からも生徒 がよく挨拶すると評価され た。今後も引き続き挨拶運 動を実施する。
	イ、基本的な生 活習慣の確 立	イ、基本的な生活習慣の確立 を目指し、定期的に風紀指 導等を実施し、校則違反者 の減少、遅刻者の減少に努 める。	イ、毎月定期的に風紀検査 を実施し、違反者が全校 生徒の10%以下にする。 また、一日の遅刻者を全 校生徒の2%以下にする	イ、毎月風紀検査を実施し た。違反者は平均10%未満 で、軽微な違反でほとんど で数日内に改善された。ま た、一日の遅刻者は平均2% 未満であった。日々の指導 を大切にして、今後も引き 続き取り組んでいく。
	ウ、問題事象の ない学校	ウ、教員と生徒との望ましい 人間関係の構築を通して、 問題事象の減少に努める。	ウ、生徒との信頼関係構築 のため、学期ごとに各学 級で生徒との懇談を実施 する。	ウ、各学級での日々の声がけ とともに、学期ごとの生徒 懇談を実施した。今後も引 き続き取り組んでいく。
	<進路指導> ア、進路学習の 充実	ア、生徒一人ひとりの個性を 尊重し、将来を見据えた進 路希望の実現のための指 導を行う。	ア、進路 LHR の資料作成を する。各学年で外部指導 者を活用し、入試システ ム・進路状況等について 学習する。	ア、作成した資料を進路 LHR で活用した。各学年とも年1 回以上の外部講師から、進 路や入試の状況について講 話を聴いた。次年度も引き 続き取り組みを進める。
	イ、進路データ の整備	イ、進路データを整備し、円 滑な進路指導を目指す。	イ、新システムにより進路 データを整備し、進路指 導での円滑な活用を努め る。進学率90%以上を確 保する。	イ、新統合システムが稼働 し、進路指導の環境が整っ た。今後も引き続き進路デ ータを活用し進路指導に生 かしていく。進学率は88% と若干低くなったが、各生 徒の目標の実現に向け指導 を継続していく。
	ウ、転学退学の 防止	ウ、保護者と連携し、入学か ら卒業まで生徒一人ひと りに寄り添った指導の徹 底に努める。	ウ、生徒との信頼関係を構 築し、転・退学率を2%未 満にする。	ウ、転・退学率は1.4%であっ た。これからも保護者と連 携し、生徒一人ひとりに寄 り添った指導を進める。

教 育 実 践 の 充 実	<p><人権教育> ア、人権意識の醸成</p> <p>イ、授業の工夫改善</p> <p><家庭との連携> ア、保護者会等の開催</p> <p>イ、学校通信等の発行とホームページの充実</p>	<p>ア、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」のない学校づくりに努める。</p> <p>イ、生徒とともに考える学習形態・参加型学習等について研究・実践する。</p> <p>ア、各種説明会、保護者会等を有効活用し、保護者との連携を図る。</p> <p>イ、金光八尾新聞や中学新聞等の定期発行やホームページを活用した学校情報の積極的な発信に努める。</p>	<p>ア、いじめゼロをめざす。</p> <p>イ、人権教育推進委員会を月1回開催し、指導方法・指導内容を研究・実践していく。</p> <p>ア、保護者会を各学年とも年間2回以上実施する</p> <p>イ、金光八尾新聞（年2回）・中学新聞（毎月）・保健便り（毎月）の定期発行と、ホームページで学校の最新情報等をトピックスとして発信する。特に、修学旅行やスキー研修等の宿泊行事は現地の状況を発信する。</p>	<p>ア、いじめは0件であった。今後も、教育相談員と連携し、教育相談や家庭訪問を大切にして対応していく。</p> <p>イ、委員会を毎月定例で開催し、資料や指導方法・指導内容について研究し、指導案を作成した。今後も継続した取り組みを進める。</p> <p>ア、中学、高校各学年ともに保護者会を年間2回以上実施し、保護者との連携を進めた。今後も引き続き実施する。</p> <p>イ、金光八尾新聞を年2回、中学新聞・保健便りを毎月発行するとともに、行事の情報もホームページで発信した。保護者からも好評であり、今後もさらなる充実を目指し引き続き実施していく。</p>
	<p><広報・募集活動> ア、学校の魅力や特色の発信</p> <p>イ、教職員一丸となった広報活動</p>	<p>ア、学校案内・ホームページ等を活用するとともに、学校・塾等を訪問し学校の魅力を発信する</p> <p>イ、入試広報部と中学・高校の教員とが連携し、本校の取り組みや学校生活についての魅力を発信する。</p>	<p>ア、学校の魅力を発信することで、中学（70人）・高校（240人）の定員を確保する。</p> <p>イ、私学展・学校説明会等に教員も参加し、受験生・保護者に本校の魅力を発信をする。</p>	<p>ア、入学者は中学74人、高校302人となった。今後も学校案内やホームページを通して、学校の魅力や特色を発信する。</p> <p>イ、教員が計画的に説明会等に参加し、受験生・保護者に対し学校生活等について説明をした。今後も職員が協力して取り組みを進めていく。</p>

意識改革と資質向上	<p>ア、「生徒による授業評価アンケート」の実施</p> <p>イ、教科会、各部会、学年会の定期開催</p> <p>ウ、企画力の育成</p>	<p>ア、生徒による授業評価アンケートを実施し、結果を教科会等で検討し、各教員が授業に生かしていく。</p> <p>イ、教科会、各部会、学年会等を定期的で開催し、情報交換等を行う</p> <p>ウ、学校・学年行事等について実施後に意見・改善点を集約し、内容のさらなる充実に努める。</p>	<p>ア、各教員の授業に対する生徒の肯定的評価が80%以上になるようにする。</p> <p>イ、中学部会・高校学年会の毎週開催、教科会・各部会の学期ごとの開催を通して情報の交換を行う。</p> <p>ウ、行事ごとに意見集約を行うとともに、教員の各行事に対する改善意欲が90%以上となるようにする。</p>	<p>ア、90%以上の肯定的評価を獲得した教員は92.57%であった。今後、教員全員が90%以上の肯定的評価を目指すため、90%未満の教員へ指導助言を行う。</p> <p>イ、中学部会や学年会の毎週開催、教科会・各部会の毎学期開催で情報交換を行い意思疎通が図られた。今後も引き続き取り組む。</p> <p>ウ、学校評価において学校行事等に改善意欲があるとする教員が96%であった。今後も行事の意見集約が、改善意欲につながるよう引き続き取り組みを進めていく。</p>
学校行事	<p>ア、生徒会による自主活動の推進</p> <p>イ、部活動の活性化</p> <p>ウ、自主・自律・自浄の精神の育成</p>	<p>ア、体育大会・文化祭・挨拶運動・奉仕活動等の活動を通して、生徒会や各クラブが主体的に活動できるよう支援する。</p> <p>イ、部活動を通して生徒の自主的な活動を促進する。</p> <p>ウ、特別活動や自主活動を通して生徒の自主・自律の精神を育成する</p>	<p>ア、学校行事等で、生徒の自主的活動に対する肯定的評価が80%以上となる。</p> <p>イ、部活動の入部率が中学で80%以上、高校で50%以上となる。</p> <p>ウ、自主的な活動の肯定的評価が学校評価で80%以上となる。</p>	<p>ア、自主活動の肯定的評価が75%となり、目標を下回った。今後は生徒会や各クラブ、係り活動等の生徒を核としながら、意欲的に取り組めるよう活動を支援していく。</p> <p>イ、入部率は中学75%、高校42%と目標に達しなかった。今後はさらに活動内容や活動時間を工夫し、魅力ある部活内容、また、学習と部活の両立ができる環境となるよう努める。</p> <p>ウ、肯定的評価が89%となった。学校行事等において生徒が自主性・自律性をもって活動できるよう今後も引き続き取り組んでいく。</p>